

授業概要

書誌学は、「本」そのものを研究対象とします。本の作りや大きさ、表紙の色や模様、使われている紙、刊記・奥付の情報などを精査し、その本の作成年代や流通などについて追究することを目的とする学問です。この授業では、とくに日本の江戸時代以前の本を対象とし、本の形態や素材、出版の歴史など、書誌学の基礎的なことからについて講義します。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界とともに眺めてゆきましょう。

なお、授業では、書誌学的な調査研究に欠くことのできない「くずし字」の解読も取り入れます。こちらについては皆で少しずつ進め、「楽しみながら読み解く」ことを目的とします。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	写本の姿(1) いろいろな写本
第3回	写本の姿(2) 「写す」方法
第4回	写本の姿(3) 古筆と古筆切
第5回	写本の姿(4) 手鑑について
第6回	料紙について(1) 紙の歴史と材料
第7回	料紙について(2) 加工料紙の様々
第8回	版本の歴史(1) 印刷の始まり
第9回	版本の歴史(2) きりしたん版と古活字版
第10回	版本の歴史(3) 嵯峨本
第11回	版本の歴史(4) 古活字版から整版へ
第12回	江戸時代の本屋
第13回	本のつくり(1) 卷子本・折本・粘葉装
第14回	本のつくり(2) 列帖装・袋綴
第15回	版本の個性
第16回	筆記試験

到達目標

- ・「書誌学」という学問の概念を理解する。
- ・本の形態や出版の歴史など、日本古典籍書誌学の基礎的事項を理解する。
- ・本の文化全般に関し、各自に応じた興味・関心、および視野を広げる。

履修上の注意

- ・授業に臨むにあたり、古い時代の文化に積極的な興味を持つことが必要です。なお、くずし字の解読についても基礎的な段階から始めます。
- ・原則として遅刻は認めません。特別な理由のある場合は申し出ること。

予習・復習

- ・授業時に提示する参考文献等に目を通すこと。
- ・博物館・美術館等の関連展示に積極的に足を運ぶこと。
- ・随時、授業の要点をまとめた「復習プリント」を配布するので、それを活用しながら復習やまとめに努めること。

評価方法

学期末試験 70%、授業への取り組み 30%で評価します。

試験では、「書誌学」の概念を理解しているか、および、書誌学の基礎的事項を身につけ、それらについて正しく説明できているかを評価基準とします。

テキスト

- ・笠間影印叢刊刊行会編『字典かな―出典明記―改訂版』(笠間書院、ISBN 978-4-305-00000-2)。
- ・その他、授業時にレジュメ、資料プリントを配布します。また、参考書についても授業時に随時提示します。